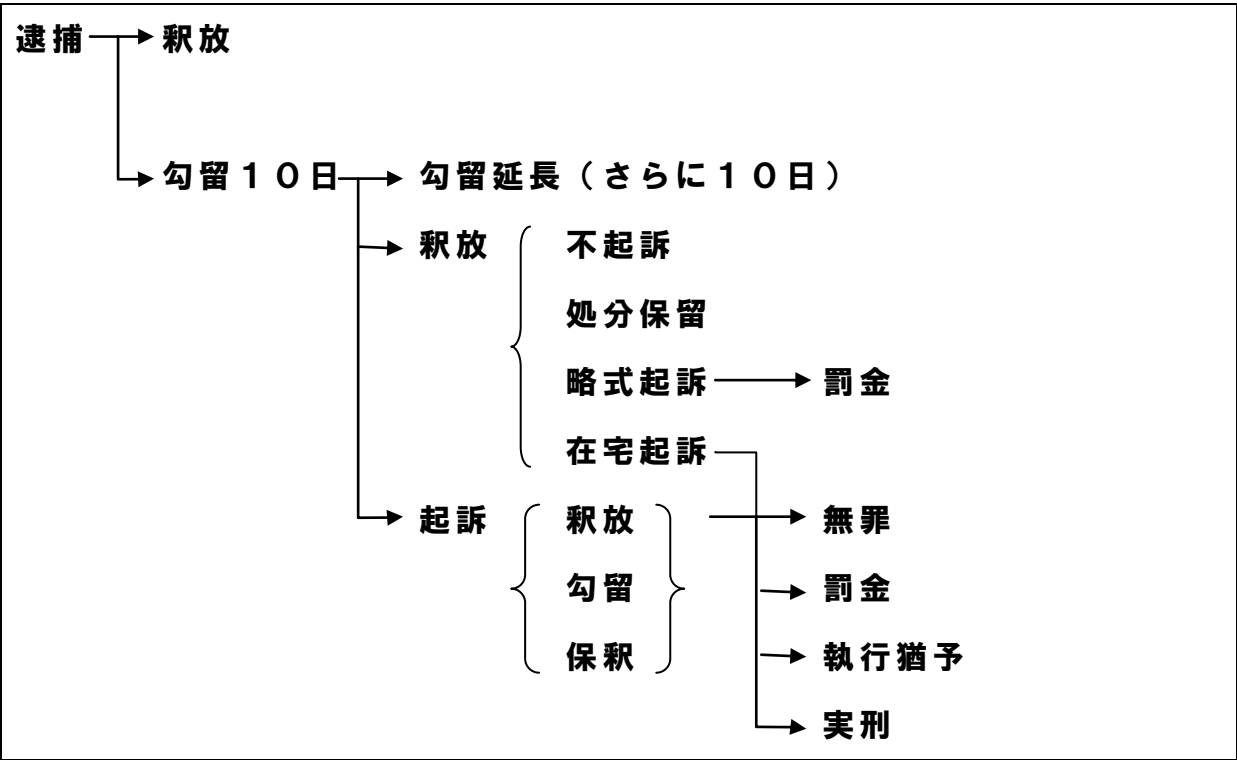


刑事手続の流れ

1 弁護士の出動契機

- 当番弁護士
- 国選弁護人選任 { 被疑者国選弁護人
被告人国選弁護人
- 私選依頼

2 逮捕後の流れ



【用語】

- ・ 当番弁護士：その日、要請が掛かったら警察に駆けつけることができるように待機している弁護士。
- ・ 国選弁護人：お金のない人や、弁護士に弁護を頼んで断られた人のために、国から選任されて働く弁護人。
- ・ 勾留：事件捜査のために被疑者の身体を拘束する手続。原則 10 日間。検察官の請求により裁判所が行う。
- ・ 不起訴：刑事裁判にはしない、つまり、罰を科さないという処分。検察にこれを行う権限があり、裁判所は全く関与しない。
- ・ 保釈：起訴された後、裁判までの間勾留されている被告人が、一定のお金を払って（預けて）釈放されるという手続。
- ・ 留置場：各警察署にある留置施設。被疑者の間は、留置場に身柄を置かれることが多い。
- ・ 拘置所：主に被告人の身柄を置く施設。神戸では、北区のひよどり台にある。
- ・ 執行猶予：懲役刑（または禁固刑）の言い渡しを受けるが、すぐには刑務所に行かない。執行猶予期間中は、刑の執行を行わない。猶予期間に犯罪を行うことなく無事過ごすと、刑務所に行かずに済む。3 年を超える懲役刑は、執行猶予が付けられない。
- ・ 実刑：懲役刑や禁固刑で直ちに刑務所に入る刑。

身体拘束と刑事手続の流れ

